

2025

10-11月

# はしかけニューズレター

2025年度 第4号 通巻185号

2025年(令和7年)11月15日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 金尾・大久保・太尾田)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

## ～ 目 次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊
- (9) 里山の会 (10) 植物観察の会 (11) たんさいぼうの会 (12) 田んぼの生きもの調査グループ
- (13) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (15) びわたん (16) ほねほねくらぶ
- (17) 緑のくすり箱 (18) 虫架け (19) 森人 (20) 琵琶湖梁山泊 (21) サロン de 湖流
- (22) 水と暮らし研究会 (23) 海浜植物守りたい

### 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(11～12月)

### 4. 生活実験工房からのお知らせ

### 5. その他の事項

会員数 ... 420人

グループ数 23グループ

(2025年 11月15日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

### ■びわ博フェス 2025 が開催されます！

11月15日(土)、16日(日)に、びわ博フェス 2025 が開催されます。はしかけグループのみなさまにも、様々にご活躍いただく予定です。普段なかなか出会う機会がない、他のはしかけグループの皆さんや、はしかけ以外の団体や企業、大学の皆さんも、フェス当日は博物館に一堂に会します。この機会に、ぜひ、それぞれの活動に取り組まれる方々と出会って、交流を深めていただければと思います。はしかけ登録をしたけれど、まだ活動のきっかけがつかめていない方も、びわ博フェスでは実際のグループのメンバーに会って様子を知ることができます。ぜひご来場ください！

### 【びわ博フェス 2025 の出展予定】

#### ポスター発表 (両日)

琵琶湖博物館フィールドレポーター、はしかけ「うおの会」、「近江はたおり探検隊」、「大津の岩石調査隊」、「温故写新」、「暮らしをつづる会」、「古琵琶湖発掘調査隊」、「植物観察の会」、「たんさいぼうの会」、「田んぼの生きもの調査グループ」、「ちっちゃなこどもの自然あそび ちこあそ」、「ほねほねくらぶ」、「水と暮らし研究会」「虫架け」、「森人」、認可地縁団体勝部自治会、京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター、(公財)国際湖沼環境委員会、湖国もぐらの会、(株)ジーエス・ユアサ バッテリー、生物多様性びわ湖ネットワーク、高槻市立自然博物館(あくあぴあ芥川)、TANAKAMI こども環境クラブ、日本野鳥の会滋賀、針江生水の郷委員会、放鳥's、ホタルの学校、ぼてじゃこトラスト、NPO法人まるよし、(株)村田製作所、野州市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)、ルシオールキッズクラブ、(株)レゾナック

#### ステージ発表

15日 15:15～16:40

15:15～琵琶湖で育まれた「よし笛」の更なる発展/愛(マナ)ミュージック・アカデミー(演奏)

15:25～環境学習センターの紹介/琵琶湖博物館環境学習センター

15:30～滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ/ぼてじゃこトラスト

15:40～生物多様性びわ湖ネットワークの取り組みについて/生物多様性びわ湖ネットワーク

15:50～はしかけ、フィールドレポーターの紹介/琵琶湖博物館環境学習・交流係

16:00～「非常災害用井戸」について/はしかけ「水と暮らし研究会」

16:10～四半世紀、滋賀県で魚を採りつづけたら、いろいろ分かってきた!/はしかけ「うおの会」

16:20～博物館の森では、幼児期からの学びがいっぱい/はしかけ「ちっちゃなこどもの自然あそび ちこあそ」  
 16:30～「水辺の魅力調査」の紹介/琵琶湖博物館フィールドレポーター「水辺の魅力調査」の紹介

## 16日 15:10～16:40

15:10～ 環境学習センターの紹介/環境学習センターの紹介  
 15:15～ しげるくんエコ大使の活動について/株式会社ジーエス・ユアサ バッテリー  
 15:25～ び・わ・こ まるごとプロジェクト 発表してきました。/ TANAKAMI こども子ども環境クラブ  
 15:35～流域圏総合環境質研究センターでの取り組み/京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター  
 15:45～ 日本野鳥の会滋賀 活動紹介/日本野鳥の会滋賀  
 15:55～ はしかけ、フィールドレポーターの紹介/琵琶湖博物館環境学習・交流係  
 16:00～ 「非常災害用井戸」について/はしかけ「水と暮らし研究会」  
 16:10～ 大津の岩石調査隊 活動紹介/はしかけ「大津の岩石調査隊」  
 16:20～ はたおり探検隊 活動紹介/はしかけ「はたおり探検隊」  
 16:30～ 「水辺の魅力調査」の紹介/フィールドレポータースタッフ

| ワークショップ                               |                               |                    |        |
|---------------------------------------|-------------------------------|--------------------|--------|
| お魚クリアファイルをつくろう                        | はしかけ「びわたん」                    | 15日<br>10:00-12:00 | 会議室    |
| 間伐材によるコースターづくり                        | トヨタ紡織滋賀(株)                    | 15日<br>10:00-12:00 | 実習室2   |
| 琵琶湖周辺の身近な生き物の世界をのぞいてみよう               | 京大大学生態学研究センター                 | 15日<br>10:00-12:00 | 実習室1   |
| お魚キーホルダーをつくろう！                        | はしかけ「うおの会」                    | 15日<br>10:00-12:00 | セミナー室  |
| 土の中から虫を探そう！                           | はしかけ「虫架け」                     | 15日<br>10:00-12:00 | 生活実験工房 |
| トンボフィギア作り                             | 生物多様性びわ湖ネットワー<br>ク            | 15日<br>13:00-15:00 | 会議室    |
| びわ博のいきものアート工房                         | 日東電工(株)滋賀事業所                  | 15日<br>13:00-15:00 | 実習室2   |
| 琵琶湖のプランクトン(微小生物)観察会                   | (株)SCREENホールディン<br>グス         | 15日<br>13:00-15:00 | 実習室1   |
| 里山の木で楽しもう                             | はしかけ「里山の会」                    | 15日<br>13:00-15:00 | 生活実験工房 |
| ヨシの魅力や大切さを楽しく学べるワークショップ               | NPO法人まるよし                     | 15日<br>10:00-12:00 | セミナー室  |
| ちこあそ びわ博フェス拡大版                        | はしかけ「ちっちゃなこどもの<br>自然あそび ちこあそ」 | 15日<br>10:00-12:00 | うみっこ広場 |
| 再生プラスチックのペレットで傘チャームを作ろう！              | (株)パンテック                      | 16日<br>10:00-12:00 | 実習室2   |
| 琵琶湖周辺の身近な生き物の世界をのぞいてみよう               | 京大大学生態学研究センター                 | 16日<br>10:00-12:00 | 実習室1   |
| 紙テープを魚の形に編み込もう                        | フィールドレポータースタッフ                | 16日<br>10:00-12:00 | オープンラボ |
| 湖流に関わる科学実験                            | はしかけ「サロンde湖流」                 | 16日<br>10:00-12:00 | うみっこ広場 |
| CO2削減取組の紹介と副産物で発生するドライアイス<br>を使った実験教室 | (株)レゾナック                      | 16日<br>13:00-15:00 | 実習室2   |
| 野鳥クイズに挑戦してバードウォッチング名人をめざそ<br>う        | 日本野鳥の会滋賀                      | 16日<br>13:00-15:00 | 実習室1   |
| 小さいカゴを作ろう                             | はしかけ「近江はたおり探検<br>隊」           | 16日<br>13:00-15:00 | 生活実験工房 |
| びわ博の森クイズラリー                           | はしかけ「森人」                      | 16日<br>13:00-15:00 | 屋外展示   |
| めざせエコ名人！キッズ免許証ゲットイベント                 | (株)ジーエス・ユアサ バッテリー             | 16日<br>10:00-12:00 | 会議室    |
| 自然と暮らす ヨシをつかったものづくり体験                 | NPO法人風と土の交響                   | 16日<br>10:00-12:00 | セミナー室  |
| 動物とのふれあい教室                            | 滋賀県獣医師会                       | 16日<br>10:00-12:00 | うみっこ広場 |
| ナカニワ湖                                 | Common sense, i               | 16日<br>10:00-12:00 | 屋上広場   |

|                       |                        |                    |             |
|-----------------------|------------------------|--------------------|-------------|
| 展示交流                  |                        |                    |             |
| 田んぼがつなぐ、人と生きもの        | 滋賀県農政水産部農村振興課          | 15日<br>10:30-12:00 | C展示室        |
| 湖と人が織りなす物語ー琵琶湖システム    | 琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会  | 15日<br>10:30-12:00 | C展示室        |
| もっと知りたい！滋賀の食事文化       | 滋賀の食事文化研究会             | 15日<br>14:00-15:30 | 水族展示室       |
| 琵琶湖とその周辺の小さな生き物を観察しよう | はしかけ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」 | 15日<br>10:30-12:00 | 水族展示室       |
| 採集した化石などとのふれあい        | 湖国もぐらの会                | 15日<br>10:30-12:00 | A展示室        |
| ヨシと暮らしの展示             | NPO法人風と土の交響            | 15日<br>10:30-12:00 | うみっこ広場      |
| 田んぼがつなぐ、人と生きもの        | 滋賀県農政水産部農村振興課          | 16日<br>10:30-12:00 | C展示室        |
| 湖と人が織りなす物語ー琵琶湖システム    | 琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会  | 16日<br>10:30-12:00 | C展示室        |
| 滋賀県の野鳥の生態と傷病鳥救護について   | 放鳥's                   | 16日<br>14:00-15:30 | 水族展示室       |
| 骨格標本の制作過程の実演          | はしかけ「ほねほねくらぶ」          | 16日<br>14:00-15:30 | おとなのディスカバリー |
| 琵琶湖とその周辺の小さな生き物を観察しよう | はしかけ「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」 | 16日<br>10:30-12:00 | 水族展示室       |
| 守山のまちなかに飛ぶゲンジボタル      | ルシオールキッズクラブ            | 16日<br>10:30-12:00 | 水族展示室       |
| 採集した化石などとのふれあい        | 湖国もぐらの会                | 16日<br>10:30-12:00 | A展示室        |

(副担当:大久保実香)

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### (1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 38名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

#### 【活動報告】

■9月21日(日) 第192回定例調査 場所: 旧余呉町・木之本町付近 参加者: 15名

秋晴れのさわやかな風の中、第192回定例調査が行われました。漁協さんの管轄範囲を避けて周辺の水路を調査しましたが、多くの班で駐車スペースと水辺へのアクセスに苦労する結果となりました。また余呉地域での活動なので熊対策の鈴などを用意されている方もおられました。

調査ではアブラハヤ、タカハヤが多く、見分け方を学ぶことができました。はじめて見たスナヤツメの姿に喜ぶ声や、いろいろな昆虫とのふれあいなど新鮮な発見も多くあったようです。4班は降りやすい場所を探しながら、金居原の土倉鉾山跡にたどり着きました。かつてはにぎわっていたであろう場所が、いまでは遺構となり自然に帰りつつあるのを感じました。

今回はみなさん調査活動を大いに楽しめたようです、次回もよろしくお願いします。(文責 手良村知央)

■10月19日(日) 第193回定例調査 場所: 丁野木川、早崎川、田川、周辺水路 参加者: 16名

午前中は雨の予報が出ていたのが気がかりでしたが、集合時間までには上がり、天候にも恵まれました。3つの川が調査予定地になっていたので、3班に分かれてそれぞれの川を担当しました。丁野木川や田川は下流からずっと矢板の護岸が続いており、入れる場所を見つけるのに苦労しました。早崎川は入りやすいいかにも魚が居そうな環境にもかかわらず見つけることができず、各班とも場所探しに苦労しながら周辺の水路などに入って調査を行いました。結果、オイカワ・カワムツ・ヌマムツ・カネヒラ・フナ類・ヨシノボリ類・ウキゴリ・ドンコ・タイリクバラタナゴ・オオクチバス・ブルーギルなどを確認しました。

全ての調査地が集合場所の近くで、移動に時間がかからないことから、調査時間を13時までとして、各班の報告をしたのちに終了しました。(文責: 高田昌彦)

■10月25日(日) 午前: 水資源機構「お魚里帰り大作戦」の支援／午後: 環境文化フォーラム観察会の支援 場所: 草津市新浜ビオトープ 参加者: 7名

恒例となった水資源機構さんの「お魚里帰り大作戦」の支援です。今年は午後から同じ場所での環境文化フォーラムさんの観察会支援もあり、ダブルヘッダーとなりました。

例年同様、大型魚、希少種を含む多数の魚たちが採集され、うおの会会員は一般参加者の皆さんの魚採りの補助や、魚種類の計数を、水資源機構職員の皆さんと協力して行いました。

午前の部を無事に終え、午後とも場所での観察会なので、「採れ高」が減るだろうと思っていたのですが、むしろ午後の方が予想を覆す採れっぷり。計数チームはパンク寸前になりながら何とか任務をこなしました。結果、午前午後合わせて在来魚1887個体(フナ稚魚が大半)、外来魚555個体(ブルーギル稚魚が大半)となりました。

解説の時間には、このビオトープが果たしている役割、カムルチーに噛まれ流血した話、2000年頃にはホンモロコはまるで幻の魚だったこと、ツチフキが最近なぜか増えていること、などをお話しました。参加者の皆さんからも活発に質問が出て、楽しんで頂けたようでした。(文責: 中尾博行)



「お魚里帰り大作戦」で採集されたカネヒラ



「お魚里帰り大作戦」で採集されたコイ

#### 【今後の予定】

12月は法竜川での調査、1月から3月は琵琶湖博物館での室内活動を予定しています。詳細は追ってご連絡します。





## (2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 島本 多敬

### 【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

### 【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を進める。

(福野憲二)



## (3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14 名】

グループ担当職員: 桒永 一宏

### 【活動報告】

■2025年 8月 24日(日) 琵琶湖博物館 参加者 7名  
オープンラボでスケッチ。博物館敷地で吟行句会もしました。

■2025年 9月 28日(日) 琵琶湖博物館 参加者 7名  
オープンラボでスケッチ。博物館敷地で吟行句会もしました。

### 【活動予定】

○2025年 11月 23日(日) 琵琶湖博物館  
各々、館内でスケッチを行います。俳句をされる人は敷地内で吟行。  
後にオープンラボで句会を行います。  
活動時間 10時30分～(15時)

○2025年 12月 21日(日) 琵琶湖博物館  
今月は第三日曜日の10時30分よりミーティングをします。  
後にオープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後は句会も予定しています。  
活動時間 10時30分～(15時)

○2026年 1月 25日(日) 琵琶湖博物館  
オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行います。  
活動時間 10時30分～(15時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。  
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

○博物館 de 俳句  
2025年の立秋は8月7日でした。  
まだまだ残暑の厳しいところで、博物館の大きな窓に掛かるすだれを見ると「秋簾(あきすだれ)」で俳句を詠みたくなります。

9月28日の活動日には湖畔の草むらで零余子(むかご)を見つけました。

※ 写真は湖畔の秋草と曼殊沙華です。





## (4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:大久保実香

### 【活動報告】

#### ■9月10日(水) 参加者:6名

はたおり探検隊のYouTube撮影が決定したので、打ち合わせをしました。午後はびわ博フェスに向けて、工房周辺に生えているオニグルミ、クワ、アカメガシワの皮を収穫。クルミは少し時期が遅いかと思いましたが、ツルッときれいに剥がれました。中からはきれいな白い木ができました。

#### ■9月28日(日) 参加者:4名

前回採集したクルミの皮を水につけ、流しの角を使ってなめしました。この作業を入れることによって、樹皮が柔らかく曲げやすくなります。この後、もう一度乾燥させました。

### 【活動予定】

#### ■織姫の会

10月8日(水)、25日(土)、11月5日(水)、12月10日(水)、20日(土)

11月16日(日)びわ博フェス「樹皮でちっちゃなカゴを作ろう」

(文責:辻川智代)



9月10日クルミの皮をはぐ



9月28日クルミのなめし



## (5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:里口 保文

### 【活動報告】

#### ■2025年8月の活動

##### ○屋内勉強会

参加者: 9名

場所: 琵琶湖博物館実習室1

日時: 8月2日(土) 13:30~16:00

目的: 外部の研究者の方から講義いただき、モニターが付いた偏光顕微鏡を使い一つの薄片を全員で観察する。

全員で共有する事により、的確に鉱物と岩石の構造や露頭について学ぶこと。

事前に募集した質問について討議し、岩石に関する知見を広げること。

分かったこと。感想:

外部の研究者にお願いした講師による、広範囲にわたる多種多様な岩石についての説明があり、大変わかりやすく充実した勉強会になった。

従来は接眼レンズの顕微鏡を使用していたが、モニターが付いた顕微鏡を使用し、画面を通して全員で薄片を観察した。平行ニコルと直行ニコルの観察した違いや、へき開や鉱物の形状などが分かり、岩石の複雑な組織を明瞭に見ることができて大変勉強になった。

顕微鏡のステージを回転させて観察すると有色鉱物の色が変化する(多色性)ののだが、とても綺麗で写真撮影もした。

今回は質問事項を事前に講師に送り、プロジェクターで説明して頂いた。

一つの画像を多くの人が観察し学ぶ事で、説明内容が的確にわかり知識も広く増えると思われるので継続したい。

#### ■2025年9月の活動

##### ○びわ博フェス事前準備

参加者: 3名

場所: 琵琶湖博物館大人のディスカバリールーム

日時: 9月6日(土)13:30~16:00

目的: ポスター内容やステージ発表について検討

#### ■今後の活動予定

- 雪野山に野外調査 10月19日(日)
- 地学研究発表会特別講演会 11月1日(土)
- びわ博フェスに参加 11月16日(日)
- 岩石持ち寄り勉強会 1月
- 地学研究発表会 2月
- 体験学習プログラム【わくわく探検隊】 3月14日(土)



## (6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ担当職員:金尾 滋史、加藤 秀雄

#### 【活動報告】

##### ■活動日 8月30日(土)

参加者 7名

活動内容 「びわ博フェス」の準備

11月15日、16日に行われる「びわ博フェス」にパネル展示する内容と方法について相談しました。

- ・「温故写新」発足20周年にあたり、今までの活動記録の展示
- ・メンバーが撮ったお気に入りの写真をモニターで展示
- ・「びわ博フェス」当日は、記録写真係として活動する

##### ■活動日 9月27日(土)

参加者 6名

活動内相 撮影会「からすま半島の四季」(秋編)

気持ちの良い秋晴れのもと「からすま半島の秋」をさがして写真におさめました。午前中半日の活動でしたが、参加者それぞれの視点で植物や風景などを撮り、充実した時間となりました。

##### ■活動日 10月19日(日)

参加者 6名

活動内容 「びわ博フェス」の準備

「びわ博フェス」に展示する写真を各自持ち寄り、パワーポイントでモニター展示できるように作成しました。

当日の記録撮影担当や展示パネル前での交流担当を決めました。

11月14日(金)17時から展示準備をします。

#### 【活動予定】

##### ■12月14日(日)10:00～ 石山寺山門 集合

活動内容 「石山寺での撮影会」



## (7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:大久保 実香

#### 【活動報告】

びわ博フェスでの発表について、相談中です。これまで聞いた内容をもとに、ポスター展示を実施する予定です。

#### 【活動予定】

地元の人たちが運営している資料館の訪問や、滋賀県内での聞き取りと聞き書きの活動を予定しています。地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、一緒に取り組みましょう。担当学芸員までご連絡ください。

(大久保 実香)





## (8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員: 山川 千代美

### 【活動報告】

#### ■ 骨の勉強会&化石のクリーニング

日時: 8月31日(日) 10:00~13:00

場所: 琵琶湖博物館実習室1 参加人数 7名

活動内容: 前半は琵琶湖博物館地下の動物標本作製室に行き、はしかけグループのほねほねくらぶさんから、シカや魚の骨の構造や特徴について教えていただきました。シカやフナ(フナ)の骨格標本を実際に見せていただきながら、シカとイノシシの胸椎の違いやコイ科の咽頭歯の位置、特徴を解説していただくなど、化石を発掘するだけでは得られない知識を数多く学ぶことが出来ました。後半は、7月に野洲川で発掘した化石のクリーニングを実施しました。クリーニング自体は1時間弱という時間でしたが、皆さんクリーニングに集中され、数点クリーニングを終えることができました。



シカの骨格標本



フナの骨格標本



化石のクリーニング作業

#### ■ 愛知川での発掘調査

日時: 9月28日(日) 13:00~16:00

場所: 愛知川(滋賀県東近江市) 参加人数: 5名

活動内容: 愛知川で発掘調査を行いました。昨年5月に1度発掘調査を行った場所で、その時はメタセコイアの球果化石やオオバタグルミの堅果化石など植物化石が主に確認されました。今回の発掘調査でも、メタセコイアの球果やエゴノキの種子化石、広葉樹の葉など植物化石が数多く見つかりましたが、今回の調査では昆虫の羽化石を初めて発掘しました。今後、昆虫の羽化石をはじめとしてクリーニング、同定作業を行っていきたいと思います。



愛知川での発掘調査



エゴノキの種子化石



昆虫の羽化石

### 【活動予定】

■ 10月19日(日) 13:00~16:00

野洲川での発掘調査(場所: 滋賀県湖南市)





## (9) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員: 奥田 岬

### 【活動報告】

#### ■9月27日(土) 道具整備・近江だるまづくり 会員7名

生活実験工房にて、年に1度の道具整備を行いました。ハンモックの虫干しを行い、すべて干し切ったら布の赤と青がとても鮮やかでよく映えていました。ノコギリも汚れと錆取りを行いました。定期的に整備することで、里山体験教室などで使った際に切れ味が保たれるので大切な作業です。

午後からは会員レクチャーのもと、東近江に伝わる「近江だるま」づくりをしました。型取りをしたものに重りの土をつけて和紙を張り重ねました。起き上がりこぼしでもあるので、重りの土をバランスをとりながらつけるのが難しく、みなさん真剣に調整を行っていました。その後筆で顔を描いたのですが、みなさん初めてとは思えないほど器用に描いていました。



### 【今後の活動予定】

10月11日(土) 秋の里山体験教室 下見

10月19日(日) 秋の里山体験教室 本番

11月15日(土) びわ博フェス ワークショップ出展



## (10) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

7月から9月にかけて、猛暑、酷暑といわれるほど暑かった。今年はススキの穂が出始めるのが遅く(早いときは8月のお盆過ぎから出始める)、秋の訪れが遅いのかと思ったら、ヒガンバナはちゃんと9月16日～20日には、あちこちで咲き始めた。クリやアベマキ、クヌギの実も落ち始め、これからまた秋の楽しい時間が始まる！

### 【活動報告】

8月 3日(日) 例年8月はお休み

参加者0名

9月 21日(日) 「水草観察 ⑥」 長浜市豊公園近く 9:30～12:30 すぎ

参加者2名

早朝の雨も上がり晴れ、26～28℃、風強い。水温は温かいと感じた。

毎年芦谷先生に教えてもらえる「水草観察」は、今年で6回目。毎年の楽しみの1つだ。

まずは、駐車場近くの河口で、エビモを捜す。昨年合った場所には見当たらず、コカナダモ、クロモと混合して生えているところから採取してもらった。エビモ、葉が細かく波打っていてきれいに見える。実際には規則性はないとのことで、不思議だ。

長浜城を見ながら、浜に到着。見るからに水位が低い(－35cmらしい)。入ってみると膝丈の半分くらいの遠浅で、生えている水草の頭が波の上に出ていた。トリゲモは大きな株でもこもこしてブロッコリーみたい、ネジレモは底でキラキラしている。とにかくよく見える！

トリゲモの株が今年は大きいし、あちこちにある(今までは足元をよく捜さないとなかった)。早速、トリゲモの雄花を発見(私は初めて見た)。ネジレモの雌花も波に乗って花茎を伸ばしている。ネジレモの雄花の見つけ方を教えてもらい手で探ると、



なんと3人とも雄株を採取できた。雄株の根元には、雄花の入った苞が付いていて、中に詰まっている雄花の元？も見ることが出来た。その後も、イバラモの雌花、雄花、クロノモの雌花、ネジレモの雌花、浮いて流れてくる雄花(かく片3, 花弁3を確認)などを観察。最後に、ヒシの水中葉や根を観察して終了。

オオササエビモやササバモなどは、水が減ってくると、水面に浮いて生育できるような葉に変わることや、ヒシの実、水底で割れて発芽するのではなく、一点から根や茎が出てそこで根付くことを初めて知り、植物のたくましさや適応力に感心するばかりだった。

ここで、観察できたのは、イバラモ(FL, FR)、ヒロハノエビモ(FL)、ササバモ(FL)、オオササエビモ(FL)、トリゲモ(FL)、クロモ(FL)、ネジレモ(FL, FR)、ホザキノフサモ、マツモ、ヒシ(FL, FR)、アオウキクサ、ウキクサ、アゾラのなかま、流れ着いたらしきオオカナダモ。深いところで芦谷先生にアンカー(水草を取る道具)を投げてもらったが、コウガイモは見られなかった。ここでは、14種の観察ができた。

初めの河口とここを合わせて、計16種を見ることが出来た。



### 【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。  
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 8月、2月は、例年お休みしています
- 10月 5日(日)「お出かけ観察」 東近江市 河辺いきものの森 9:30~12:00 すぎ
- 11月 2日(日)「お出かけ観察」 甲賀市 みなくち子どもの森 9:30~12:00 すぎ
- 12月 7日(日)「持ち寄りの観察」 博物館実習室など 10:00~12:00 すぎ
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



## (11) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10 名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

### 【活動報告】

9月23日(火・祝)に、たんさいぼうの会第80回総会を、琵琶湖博物館研究交流室で開催しました。オンサイトで7名、オンラインで2名が参加しました。総会では6月の日本珪藻学会大会で、会員や影の会長が行った研究報告の紹介がありました。また、ウェブページの作成が検討されました。そして最後に近況報告が行われました。次回総会は3月末か4月初め、桜の時期に合わせて行われる予定です。

これに先立9月12日(金)、安曇川にミズワタクチビルケイソウが定着したことを報じる記事が掲載されました。これは、たんさいぼうの会会員で琵琶湖博物館特別研究員の根来健さんを中心に、たんさいぼうの会で細々と続けてきたモニタリング結果を、元 たんさいぼうの会会員の人見勅輔さんがスクープし、5月の調査に同行取材して書いた記事です。

<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/1560171>

会員の畑中顕さんが中心になって書いた論文が、珪藻学会誌 Diatom に受理されました。ただしこれは主として畑中さんの大学院での研究成果なので、たんさいぼうの会名義にはなっていません。受理日が10月に入ってからだったので、詳細は次号でお知らせします。

Hatanaka A, Inoue M, Izumino H, Yoshiyama K, Negoro T, Ohtsuka T (2025) Diatom Flora in a Channel fed by Lake Biwa on the campus of the University of Shiga Prefecture, Japan. Diatom 41(in printing).

他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

### 【活動予定】

びわ博フェスにはポスターのみの参加です。



## (12) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

「令和の米騒動」のなかで、コメの直播栽培に注目する動きがあるようにも聞きますが、田植から中干までの水を湛えた水田を住処にする田んぼのエビたちにとって、こうした人間社会の動きは幸いするのでしょうか、それとも、災いすることになるのでしょうか。

### 【活動報告】

滋賀県自然環境保全課が2021年3月に発行した「滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県レッドデータブック2020年版」には、我々が調査研究対象の一つにしている「ヒメカイエビ属の一種」が「希少種」として掲載されています。レッドデータブックの5年に1度の改訂にあわせて、元琵琶湖博物館学芸員のグライガー博士の指導をいただきながら、元びわこ成蹊スポーツ大学教授の西野麻知子先生と共著で、その記述を修正する作業を8月下旬に行いました。年明けに刊行される2025年版では、私たちのグループによるここ5年間の調査で明らかになった滋賀県における「ヒメカイエビ属の一種」の分布が掲載される予定です。

### 【活動予定】

この原稿が発行される時期には既に終了しているのですが、10月13日に琵琶湖博物館で本年度の調査結果報告会を開催します。その会合での議論については、次号のニューズレターで報告する予定です。

(山川 栄樹)



## (13) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:中村 久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。(おさんの様子に合わせて、いつ来ても、いつ帰ってもOKです。)

### 【活動報告】

◆8月はお休み

◆9月の活動 9/(水) 11組(幼児16名、大人13名)

今年の夏は暑い！そして9月に入ってもまだまだ暑い！そんな中ですが多くの親子が集ってくださりました。田んぼには稲が育ちそろそろ収穫時期を迎え、バッタやイナゴ、カマキリがいます。その上空ではトンボたちが時間ごとに交代してやってきます。

そう、生き物探しにはピッタリ。親子が捕虫網と虫かごを持って、田んぼと周りをぐるぐる。「とれたー」の声を聞いて、みんなが見に集まります。捕れた生き物は、バンダナおじさんやちこあそメンバーと、ケースに入れてじっくり観察します。お母さんらも、意外と大きかったり、跳ねたり、きれいだったりの生き物たちを見て、ドキドキしながら観察します。

森を抜ける探検をして、博物館アトリウム前の原っぱにも出かけました。草が生えているけれど、工房前とは違う様子。子どもたちが原っぱを歩くと、生き物たちがびっくりして飛び跳ねます。なんと、飛び出たバッタをウチワヤンマ(トンボ)が空中で捕まえてムシャムシャ食べ始めました。間近な弱肉強食の世界に、親子でびっくりしました。

暑いとなれば、当然水遊び。ガチャコンポンを動かして、ひたすら水に触れる子も。まだまだ暑い日が続きます。

◆ちこあその絵本をプレゼントしています

ちこあそで、自分で作るスタンプカードがあります。3回スタンプがたまると、ちこあその絵本がもらえます。お家で絵本を読んで、室内でもちこあそを思い出して欲しいとの思いです。ぜひ3回来てください。





今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃん)が担当しました。

### 【今後の活動予定】

びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

| 活動月  | 実施日、時間                      | タイトル                  | 内容                                                     |
|------|-----------------------------|-----------------------|--------------------------------------------------------|
| 11 月 | 11 月 15 日(土)                | びわ博フェス<br>ちこあそ<br>特別版 | 定員 10 組<br>予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。                 |
| 11 月 | 11 月 19 日(水)<br>10:00-14:00 | ちこあそ 11 月             | 毎月おおよそ第 3 水曜日に行っています。<br>ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど |
| 12 月 | 12 月 日(水)<br>10:00-14:00    | ちこあそ 12 月             | やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。                     |

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



#### (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

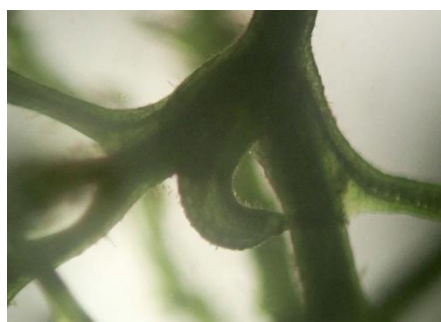
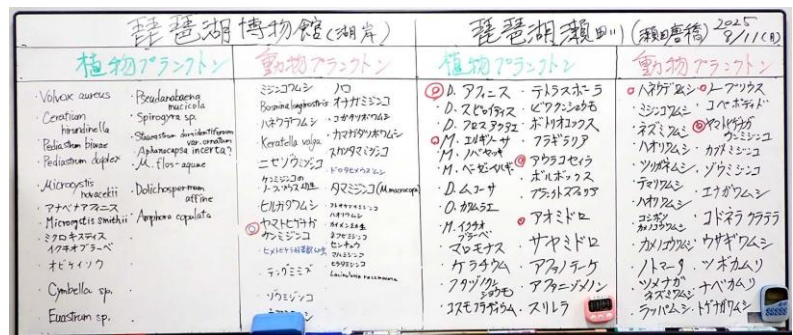
【活動報告日の活動会員数(のべ)22名】

グループ担当職員:大塚 泰介

## 【活動報告】

■ 2025 年 8 月 11 日(月) 参加者:10 名、学芸員:2 名

博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。今回は NHK の取材が有りました。ニュースで活動の様子が流れたようです。



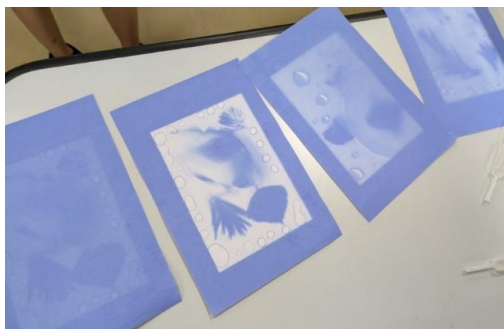
博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。最近では中学生のメンバーが自身で行っている研究の相談をしているのですが、とても中学生とは思えないハイレベルな研究で感心してしまいます。びわ博フェスでも発表するようなので楽しみです。

[illegible]

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



その後、日光で写真を…何とも微妙な曇り空…どうしよう…蛍光灯に頼るのか…日光で写真なのに…思い悩んでいると、朝イチ、びわたんキッズ作成でてる坊主の効果があらわれ、雲からお日様の光が(\*^^\*)何とか日光で写真を撮ることができました。





## ■びわ博フェスにむけて

9月10月数日

クリアファイルの見本作成、当日の材料や流れの確認など個々に活動しました。



ほねほねくらぶ

## (16) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

### 【活動報告】

■7月27日(日) 参加者:4名

タヌキの解剖、カラスの仮剥製の制作、タヌキの解剖を行いました。

■8月9日(土) 参加者:3名

カラスの仮剥製の制作、タヌキの解剖を行いました。

■8月31日(日) 参加者:2名

タヌキの解剖を行いました。

また、この日の午前中は、はしかけグループの古琵琶湖発掘隊の皆さんとの合同での活動を行わせていただきました。

皆さんと実物の骨を手にししながら疑問や気付いたことなどを話し合い交流させていただいて、とても良い時間をすごさせていただきました。

■9月6日(土) 参加者:3名

カミツキガメの解剖、アライグマの解剖を行いました。

今回から制作に入ったカミツキガメは尻尾に変形が見られ、その様子がまるで恐竜の様に見え、なんだかうれしくなっていました。

制作をしていると時々このような変形や様子が変わったものなどに巡り合うことがありますが、制作を進めながら、その外形から原因を考えたり、骨の様子を観察することで原因を想像してみたりして、それを話し合ったりするのはとても楽しい時間です。

■9月28日(日) 参加者:4名

タヌキの解剖、イタチの解剖、カミツキガメの解剖を行いました。



▲今回制作したカミツキガメの尻尾の様子

### 【活動予定】

11月の活動日は8(土)、23(日)を予定しております。

また、11月16日に琵琶湖博物館において行われているびわ博フェスにて、来館者の方との交流活動を予定しております。

12月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



▲以前制作したカミツキガメの尻尾の様子





## (17) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24 名】

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

■7月24日(木) 参加者: 8名

活動内容: 藍染め(琵琶湖博物館・生活実験工房)

3月に種をメンバーに配って、各自で苗を育て、生活実験工房の畑に定植させた藍の苗は順調にすくすくと育ち、いよいよ藍染めをできるようになりました。今回は藍の生葉そめと、葉っぱのたたき染めを行いました。生葉染めは藍の葉をきれいに洗い、ミキサーに入れ水と一緒に攪拌します。それをざるなどで漉して染液を作り、ストールなど各自が染めたいものつけて、しっかりと染めます。生葉染めは媒染が必要ないので、そのまま水で洗い、乾かして出来上がりです。メンバーはビー玉などを結んだり、折りたたんで糸などで絞ったりして、藍染めの模様を楽しんでいました。

たたき染めは、布地の下に藍の葉っぱを重ね、上からラップやクリアファイル等で抑え、ハンマーなどでトントンと叩いて染めていきます。しっかり叩かないと葉っぱの模様が映らないので難しかったです。



### 【参加者の感想】

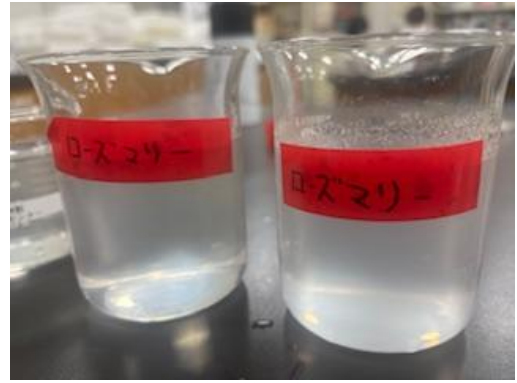
- ・シルクのストールを染めましたが、宝石のようなきれいな青色に染めあがりました。
- ・仕上がりがわからないまま適当に絞ってみて、思った以上の良い作品に仕上がりました。
- ・自分たちで育てた藍で染めたというのが感慨深かったです。
- ・生葉染めでの出来上がりは、今までの藍染めとは違った風合いで新しい発見でした。
- ・一番汁、二番、三番まで染めてみて、だんだん明るい色になり、それぞれきれいな藍色になり、奥深いです。
- ・染めた布と夏空がよく似合いきれいな景色でした。

■9月14日(日) 参加者:9名

活動内容: アランビック蒸留器の勉強会(琵琶湖博物館・実習室2)

毎年2回開催している「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」は平日の開催のため、仕事の都合でいつも参加が出来ないメンバーの「私たちもアランビック蒸留器で蒸留してみたい!」との気持ちに答えて開催しました。アランビック蒸留器は環境学習センターでお借りしました。まずは説明書を見ながら、使い方の動画を視聴して、組み立てていきました。

蒸留した植物はそれぞれメンバーが持ち寄ったもので、今回蒸留したのは、ラベンダー、ローズマリー、アップルミント、山椒です。ラベンダーやローズマリーは蒸留してみると香りもしっかりして、精油も確認できました。さすが、アロマセラピーで使われる代表的な植物といったところです。アップルミントも香りがしっかりしていましたが、蒸留すると少し印象が違った香りになりました。山椒は香りが薄くなりました。スプレーボトルに、精油と合わせて、アロマスプレーを作りました。ローズマリーは蒸留水を採取したビーカーのふちに精油が残っていたので、それをお湯で溶かして、タオルを浸し、アロマセラピーで行われる湿布法を試すことも出来ました。



### 【参加者の感想】

- ・初めての蒸留体験だったのでアランビックの使い方を試行錯誤して楽しかったです。
- ・ポットいっぱいのハーブを使ってとれる精油は本当にわずかなことがわかりました。
- ・アロマウォーターの色の变化と香りの濃厚さの変化が面白かったです。
- ・植物の直接の香りと蒸留した香りとの違いを実感できて面白かったです。
- ・自分たちで組み立てることでアランビックの仕組みや使い方をよく理解することができました。
- ・植物によって精油の含有量の違いがわかり面白かったです。

■9月23日(火) 参加者: 4名

活動内容: 藍の畑の刈り取り(琵琶湖博物館・生活実験工房)

藍の畑は種をとる分だけを残して、雑草と一緒に刈り取りました。来年も種を育てて、藍染めができるといいなと思います。

■10月18日(土) 参加者: 3名

活動内容: 京都府立植物園で植物観察(京都府立植物園)

今年度の館外活動は、京都府立植物園へ出かけました。大正13年に開かれた歴史のある植物園で見られる巨木が長い歴史を物語っているようでした。屋外一周して、ゾーンごとに植物の香りや感じ方が違い、森林浴がしっかりできました。途中で雨が降ってきたので温室をゆっくりと見ていきました。イランイランの花が咲いており、香りを嗅ぐことが出来ました。アロマテラピーで使うイランイランの濃厚な精油の香りとは違い、爽やかさもあってとてもいい香りでした。他にもスパイス、フラワーエッセンス等に使われている植物も多く見られました。香りを探す楽しみと発見した時の驚きもあり、楽しく観察が出来ました。温室なのに植物のダイナミックさも感じられました。



### 【活動予定】

- ・11月11日(火) 10:00~12:00 「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」(生活実験工房)
- ・11月23日(日) 10:00~15:00 柚子胡椒作り(場所未定)
- ・12月6日(土) 時間未定 しめ縄作り





## (18) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 38名】

グループ担当職員: 今田 舜介

### 【活動報告】

■6月28日(土)11時～22時 参加者:8名 東近江市

6月例会は、昼間の採集と夕方からの灯火採集を行いました。道の駅「奥永源寺溪流の里」で集合後移動し車を止め、道路沿いを皆さん自由に採集開始。周辺の植物をスーピングすると多くのエダナナフシに混じってトビナナフシが得られました。少しずつ下山しながら15時まで採集を続け、次に移動。19時頃までには灯火採集だけに参加される会員も合流され、終了時間の22時まで灯火採集を楽しみました。その後道の駅で現地解散して6月の例会は終了となりました。



■7月13日(日)9時～11時 参加者:10名(一般参加者8名 家族22名) 琵琶湖博物館 生活実験工房

7月例会は、琵琶湖博物館の工房行事(昆虫採集)のサポートを行いました。サポートする会員さんが集合し、簡単に打合せを行って、受付を開始。一般参加の方にはAとBの2班に別れていただき、簡単な注意の連絡後、A班は工房周辺から、B班は池周辺から観察を開始。途中休憩後、場所を交代し観察は終了。その後工房で観察した虫のリスト作成、簡単な解説を行い、最後に参加者のみなさんにアンケートを書いていただき終了となりました。観察された昆虫は9目47種。心配された熱中症などの問題もなく無事終了しました。



■8月31日(日)11時～15時 参加者:12名 長浜市

8月例会は、長浜市において昼間の採集・観察会を行いました。集合後、林道の奥へ採集や観察をしながら移動して行きました。林道ではオニヤンマや倒木にいたナガゴマフカミキリなどを採集し、林道入り口まで戻った時に倒木で狙いのヤマトタマムシを発見し、各自スマホで撮影しここでの目的の半分は果たせました。昼食後、後半の目的であるアカボシゴマダラ(外来種)などを探しました。結局、アカボシゴマダラは見つからず、それとは別に数年前から県北部に侵入してきたシタベニハゴロモが見つかりました。





■10月18日(日)10時～12時 参加者:8名 琵琶湖博物館 生活実験工房

10月例会では、「びわ博フェス」で展示するポスターを作成しました。まず、過去の虫架け通信をポスターに貼り付けました。また、皆さんで意見を出しあって虫の画像を貼り付けることになりました。相談の結果、イボタガ、ヤマトタマムシ、オオセンチコガネの3種類の画像を貼り付けることに決まりました。その後、ワークショップで行う土壌中の虫の観察の手順を体験しました。

また、「虫架け通信」82号、83号、84号、85号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。



【活動予定】

これからも1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



(19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■7月26日(土) 研究交流室にて会議 10時～12時

参加者:(会員)4名

- (1)ニューズレター6月7月号の原稿内容をメンバーで確認、ニューズレター担当者は文章量、内容をどこまで詳しく書くかなどは自由であることを確認した。
- (2)11月開催のびわフェスに関しては、次回、展示ポスター実物を見ながら内容を手直しする。
- (3)フォレストマスター9月10月号について。前回、4つに絞ったクイズの表現の仕方や掲載写真を決め、次回の8月23日には仕上げる。イラストの男の子、女の子のキャラクターの名前を決めたい。

■8月9月 お休み

■8月23日(土) 研究交流室にて会議 10時～12時

参加者:(会員)5名 (博物館職員)林

- (1)フォレストマスター9月10月号の内容を検討した。屋外の樹冠トレイルを歩きクイズの植物の様子や写真が合っているかを確認、植物やドングリの生育の悪い箇所があり場所を変更。ドングリはシラカシからアラカシに変える。
- (2)びわフェス 森ひと紹介ポスター。森ひとの活動エリアの地図を樹冠トレイルの載っている森人ガイドブックの地図に変更。森人(もりひと)活動の説明文書を並び替える。
- (3)フォレストマスターのキャラクターの名前はびわ博フェスの参加者に選んでもらう。

■9月13日(土) 研究交流室にて会議 10時～12時

参加者:(会員)6名 (博物館職員)林

- (1)フォレストマスター9月10月号のコウヨウザンとマテバシイの樹名板の取り付けと同時に、屋外展示の樹名板、説明版の見直し。

(2)びわ博フェスに関して。次回クイズの内容は昨年と同じか検討する。クイズ終了後の参加者へドングリのプレゼントが好評だったので今年もメンバーでドングリの採取しておく。

びわフェスでメンバーが付ける森人のバッチをYさんが手作りしてくれた。折り紙のドングリは飾り付けにもしくは参加者のプレゼントにするのか後日検討。



(3)博物館 C 展示に常設するラミネート資料「おすすめの木(part1)」についての話し合いをした。Mさん作成の樹木解説文章の内容をメンバーが持ち帰り検討する。Part1で取り上げる樹木は、メタセコイア・スイショウ・ブナ・コウヨウザン・ユズリハ・ヒノキ・アスナロ・サワラの8種類。完成予定は今年の12月中。

久しぶりにメンバーの7人が揃い活気のある話し合いになりました。屋外展示の樹木板の見直しの際に見掛けた枯れ枝やクモの巣など森の整備をハチの活動が終わり次第、早い時期に必要と感じました。

#### 【今後の予定】

- 9月27日(土)外部観察会 春日山公園(堅田)
- 10月11日(土)外部観察会 京都府立植物園

#### <びわフェスの出店について>

11月16日(日)13:00~より びわ博の森クイズラリーを実施します。森のプレゼント付き！  
誰でも気軽にご参加ください！



## (20) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:大塚 泰介

#### 【活動報告】

琵琶湖梁山泊の唯一の会員(中2)は現在、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」に出入りして、プランクトンや付着藻類の観察にいそしんでいます。同会に集う同年代や年上の仲間とともに、自分たちが進めている研究の話で盛り上がっています。引き続き、ミジンコ類の甲殻表面にある模様のパターンについて、同学年の「観察する会」会員と議論し、「びわ博子ども若者研究発表交流会」出の発表に備えています。

### 【活動予定】

琵琶湖梁山泊の唯一の会員(中2)は、11月16日に琵琶湖博物館で行われる「びわ博子ども若者研究発表交流会」で「ミジンコの甲殻表面における模様の種によっての違い」というタイトルで発表します。

琵琶湖梁山泊では、引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか？琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生や、研究が進展しすぎて先生の手にも負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。まずははしかけ登録をして、上記のはしかけ代表アドレスにご連絡を。集え梁山泊へ！



## (21) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:金尾 滋史

### 【活動報告】

■ 開店休業状態が続いていますが、博物館の担当者と協議した結果、「湖の物理」に関する利用者の受け皿になる活動は必要だろうということで、当面は一般来館者を対象とする活動の展開を試みるということになりました。

可能なら夏休み中に何かできればと考えていたのですが準備が捗らず、「びわ博フェス」でのワークショップ開催を目指して準備を進めています。

### 【活動予定】

■ コロナ禍以前と同じような活動は進められない状況が続いていますが、興味を持ってくださる方からは継続的に声をかけていただいていますので、この状況でどのような活動展開が可能かを模索しています。

(戸田 孝)



## (22) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員:楊 平

### 【活動報告】

■ 令和7年7月11日(金) 9:00-12:00 晴 参加者 6名

- 1 活動先: 東近江市百済寺町一帯
- 2 調査内容。

今回は東近江市百済寺町における地域の現状、水の利用状況、町内の岩神社手水の水質について調査・確認することが目的である。

- 3 調査結果。

百済(くだら)町は、旧愛東町の南西部に位置し、北は北坂町、南は上山町、西は百済寺本町に接している地域である。

名神高速道路沿いに建つ近江温泉病院から北坂町の集落を抜けた突き当りを右折、再び名神高速の下をトンネルで山側に抜け、左手の坂本神社(北坂町)を過ぎると軽い登坂の一本道が百済寺町に続いている。同じ付近から琵琶湖側を望むと、緩傾斜面に水田耕作地が広がり、湖東平野の向こうに湖西の山々も望むことができる。この道も集落の中央部、公民館の辺りまでは広い道幅で繋がっている。少し高台にある公民館前からの眺望も素晴らしいが公民館前の石垣下3枚ほどの狭い耕作地は、耕作放棄状態になっていた。この公民館前までは八日市市駅からの巡回バス「ちょこっとバス」が一日数本であるが運転されているようだ。こちらも周辺集落同様、日中の人の往来は、ほとんどなかった。公民館前から南川沿いに最奥の岩神社前までは道幅が狭く、車の対向は難しくなるが、岩神社で行き止まりのため、車の往来もほとんどない。

岩神社の鳥居横に近年寄進されたと思われる大岩が座しているが、ご神体と称される大岩とは別のものである。本殿横には小さな脇社 津島社と愛宕社が祀られている。猿が一匹遊んでいた神社前の空き地は民家の住居跡で 丸石を使った石垣だけが残っていた。今は獣害フェンスで行き止まりになっている山道であるが、昔は集落を超えて百済寺への往来道であったことが想像できる雰囲気である。集落内の石垣 並びに南川の堤防の石垣も周辺に多く見られるが愛知川を中心とした河原で集められたと思われる角の取れた丸石が綺麗に積み上げられて使用されているのが目につく。古人は、河原からせっせと時間をかけて運び込んだのであろう。道路脇の溝に山から複数本のパイプで導水されている水は、以前は各家の生活用水であったが、現在は散水用のみに使用している。





□百済寺町への集落に続く道



□木造作りの公民館



□岩神社の鳥居



□百済寺に通じる参道



□水路にある導水パイプ



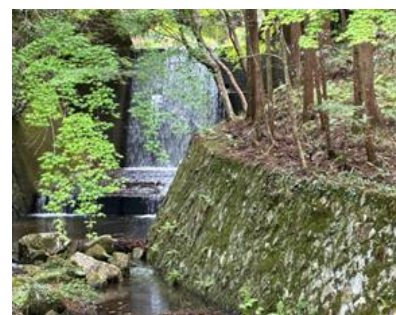
□岩神社の手水



□岩神社の本殿と脇社の丸石垣



□集落の丸石垣跡



□南川の丸石使用の堤防

■ 令和7年9月12日(金) 9:00-12:00 晴 参加者 6名

1 活動先: 東近江市梅林町、小田刈町、近江商人博物館

2 調査内容。

今回は東近江市梅林町における地域の現状、水の利用状況、「すこやかな杜運動公園」隣接地の「猿尾」が残る森の確認を行うことを目的とした。また、東近江市近江商人博物館で開催中の企画展「猿尾」も見学した。

3 調査結果。

八日市方面から県道 327 号線で大萩町越えた交差点を左折すると道幅が少しづつ狭くなり梅林町の境界看板で道路は集落に入っていく。道路の左手に愛賀神社の小振りの鳥居から本殿に続く参道がある。本殿裏の森は少しぬかるんだ湿地で、地下水脈からしみだしている。付近のバス停の道路脇に愛知川用水 第二幹線用水路標識が設置されている。集落内の道路は決して広くはないが、車の往来が可能な道幅で縦横に3本程度が交差している。集落の中央に林光寺があって、境内横に平成 21 年に建立された「梅林村の歴史」の石碑がある。裏面には天正 10 年(1582)頃から始まった村の歴史が刻まれている。水利用として通称地名「溜下(ためした)」に溜池の痕跡が明瞭に残っている。前述の本殿横の湿地帯も痕跡であろう。

また、今回、「猿尾 さるお」と言われる大規模な護岸工事やダムのなかった時代に、川の水流の方向を変えたり、勢いを弱めたりして、集落への洪水被害を抑えるために利用した構造物のことであるが、その現地確認を行う予定であったが現在は、該当地域は個人所有地であり、付近の状況確認のみで終わった。「猿尾」自体の実態はまだ未解明であり、現在、琵琶湖博物館において他大学と共に調査・研究が進められているとのこと。調査帰りに、東近江市近江商人博物館で開催中の企画展「猿尾」も見学した。現在、琵琶湖博物館企画展示室にて「川を描く、川をつくる」第 3 期の古地図資料で取り上げられている「猿尾」の詳細説明展示を見学した。「猿尾」と言われる構造物の存在を知ったことは、新鮮な情報であり、先人たちの知恵のかたまりを感じるとともに県下のほかの場所でも存在していたことは驚きであった。





□愛知川用水分岐管



□愛宕神社参道



□梅林町町内街並み



□左側の森の中に「猿尾」が存在1？

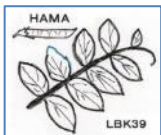


□左側の森の中に「猿尾」が存在2？



□猿尾企画展入口

執筆者 小篠 伸二



## (23) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

\*2025年 7月 1日(火) 9時30分~11時30分

天候:晴れ 気温:30°C(9時30分) 琵琶湖の水位:-19cm 参加者:7名

**新海浜の状況** \*土用の薄曇りか、対岸の山は霞んで見えない。湖面は波もなく穏やか。水位が下がり浜には枯れたヨシやゴミが打ち上げられている。オオフタバムグラが出始めた。

### 定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

### 海浜植物の生育状況

**ハマエンドウ:**あちこちに新芽ができています。植物体が成長している一方、枯れてしまっているものもある。

日の当たる中央は大部分枯れている。

**ハマゴウ:**浜いっぱい広がり地面が見えないほどである。花も咲き全体的に花芽(つぼみ)がついている。

**ハマヒルガオ:**種も葉も枯れてきた一方、所々緑の葉をつけている。



**今日の作業内容** 今日の作業のミーティングで、草刈り機二台による草刈り(保護区前の駐車場側と東側のツルニチニチソウ)、乾燥防止のため刈り取った草を直射日光が当たる保護区の中央へ敷く。保護区内除草(カタバミ、コマツヨイグサ、ツユクサ等)を行う。保護区外のメリケンムグラ等の除去も行う。  
アメリカネナシカズラは見当たらなかった。



成長しているハマエンドウ



新芽を出したハマエンドウ



咲き出したハマゴウ

**\*2025 年7月 18日(金) 9時30分～11時30分**

天候:曇り時々晴れ 気温:30℃ 琵琶湖の水位:-22cm 参加者:3名

**新海浜の状況** \* 波は静か、蒸し暑い中で吹く風がひんやりしていて心地よく感じる。比良山系他の山並みが眺望できる。

**今日の作業内容** \* 保護区内および保護区外雑草(メドハギ、メマツヨイグサ等)の除去作業。\* ハマエンドウ保護柵の琵琶湖側の出口近くのハマゴウ群生地中に浜に打ち上げられたと思われる枯れた草、ヨシ屑、枝、プラ容器等の廃棄物を清掃除去した。(約 30kg)

#### 定点観測



7月18日の琵琶湖



ハマエンドウ



右下:廃棄された枯れ藁、枝等

#### 海浜植物の生育状況

**ハマエンドウ:**ところどころ葉はまだ残っているが枯れ始めている。

**ハマゴウ:**ほぼ満開であり、写真より直接見た方が綺麗である。

**ハマヒルガオ:**葉はところどころで残っている。

アメリカネナシカズラは見当たらず。

#### 保護区内外の状況(写真)



ハマゴウ



ハマゴウ



ハマエンドウ



**\* 2025 年 8月5日(火) 9時30分～11時30分**

天候:曇りのち晴れ 気温:32℃(9 時 30 分) 琵琶湖の水位:—41cm 参加者:7 名(新メンバー1名増)

**新海浜の状況** \* 気温が32度と暑い。対岸の山の麓はうっすら霞んで見える。波も穏やかで水も澄んできれい。

水位が下がり波打ち際は段差がつき砂がきれい。浜掃除ができていてオオフタバムグラも見当たらない。

\* 松枯れが一段と進み、日陰がだんだんなくなっている。(特に中央部分から南西にかけて)

\* 雨が降らないため草も枯れている

#### 定点観測



8月5日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

#### 海浜植物の生育状況

**ハマエンドウ:**全面的に枯れている。東側の松の木の下や観察中の草の中は辛うじて持ちこたえている。地温も高くカサカサで水気がない。

**ハマゴウ:**は少し枯れかけてほとんどの枝に種がついている。花も見られるが全盛期はすぎた。

**ハマヒルガオ:**ほとんど消えてしまったが、所々緑の葉をつけている。

**今日の作業内容** \*ミーティング(1名入会。自己紹介・活動内容等): \* 保護区内除草(コマツヨイグサ、ツユクサ等)

\* レンゲ畑の裏返し \* アメリカネナシカズラは見当たらず。

#### 保護区内外の状況(写真)



ハマエンドウ(東側松の木の下)



太陽の当たる場所のハマエンドウ



草の中のハマエンドウ



ハマゴウの種と花



松枯れが一段と進んでいる

以 上

### 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(11～12 月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

| タイトル                                 | 内容                                                                                      | 期日                          | 曜日     | 時間                          | 場所               | 備考                                                        |
|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------|-----------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------|
| びわ博フェス 2025                          | 滋賀県や琵琶湖流域をフィールドとした活動や、湖と人間のよりよい共存関係に繋がる活動を行っている団体等による、ワークショップ、展示交流、ステージ発表、ポスター発表等があります。 | 2025 年<br>11 月 15 日<br>16 日 | 土<br>日 | 9 時 30 分<br>～<br>17 時 00 分  | 琵琶湖博物館<br>館内各所   | 詳細プログラムは琵琶湖博物館ホームページに掲載。                                  |
| ちこあそ・11 月<br>(ちっちゃな子どもの<br>自然遊び)     | 博物館の森の中でゆっくりと過ごしなが、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。11 月は森の中でどんぐり拾いもできるかな。                  | 2025 年 11<br>月 19 日         | 水      | 10 時 00 分<br>～<br>14 時 00 分 | 琵琶湖博物館<br>生活実験工房 | ※事前申し込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。          |
| 【わくわく探検隊】<br>葉っぱのランタンをつ<br>くろう！      | 様々な葉を採取した後、葉の特徴を生かしたランタンづくりをします。葉の色や形、模様の特徴や、その樹木について博士に教えてもらいます。                       | 2025 年<br>12 月 13 日         | 土      | 13 時 30 分<br>～<br>15 時 00 分 | 琵琶湖博物館<br>実習室 2  | ※定員 15 名(先着)<br>※雨天決行<br>※当日受付(13 時 00 分～)受付は実習室 2 で行います。 |
| 【田んぼ体験】<br>生活実験工房<br>田んぼ体験<br>しめ縄づくり | 生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、しめ縄づくり作業を体験して頂きます。               | 2025 年<br>12 月 14 日         | 日      | 10 時 30 分<br>～<br>12 時 00 分 | 琵琶湖博物館<br>生活実験工房 | ※要事前申込<br>(多数の場合は抽選)<br>※多少汚れてもよい服装をご準備ください。              |
| ちこあそ・12 月<br>(ちっちゃな子どもの<br>自然遊び)     | 博物館の森の中でゆっくりと過ごしなが、五感で触れて、楽しんで、自然の面白さを体験する遊び場です。12 月もまだまだ元気にそとあそび！                      | 2025 年<br>12 月 17 日         | 水      | 10 時 00 分<br>～<br>14 時 00 分 | 琵琶湖博物館<br>生活実験工房 | ※事前申し込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。          |
| 地域の魅力の再発見<br>連携講座                    | 自然と関わる多様な知恵や工夫などを紹介し、地域の魅力を再発見するための連続講座を開催します。                                          | 2025 年<br>12 月 21 日         | 日      | 14 時 00 分<br>～<br>15 時 00 分 | 琵琶湖博物館<br>会議室    | ※要事前申込(多数の場合は抽選)<br>※中学生以上                                |



## 4. 生活実験工房からのお知らせ

---

今後の生活実験工房の農作業イベントは、以下の通りです。

事前予約制(応募多数の場合は抽選)となりますので、ホームページのイベント情報でご確認の上、お申し込みください。

### 【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付 10:00～) 場所：琵琶湖博物館 生活実験工房

※多少汚れてもよい服装をご準備ください。

12月14日(日) しめ縄づくり

2月8日(日) わら細工

担当:環境学習・交流係

## 5. その他の事項

---

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、必ず会員証を持参してください。会員証を携帯せずに活動することはできません。

### (4) はしかけ活動中に事故が起きたら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。